“奇跡の国学者”塙 保己一　ヘレンケラーの心の支え

視覚、聴覚、言葉を失うという三重苦を乗り越え、福祉事業の発展に身を捧げたヘレン・ケラー女史。その奇跡をもたらしたのは、家庭教師であるアン・サリバン先生の献身的な教育でした。

その奇跡の背景に、一人の日本人がいたことはあまり知られていません。江戸時代に活躍した盲目の国学者「塙 保己一」です。母親から「塙先生を手本にしなさい！」と言われて育ったヘレンは、その存在を支えにして勉強に励んだそうです。

塙 保己一は、7 歳の時に失明しました。やがて、学問を志し、全国に散らばっていた貴重な歴史書や古文書を一つにまとめていくことを決意します。集めた文献を弟子に読み聞かせてもらいながら、頭の中で編纂し、41 年もの歳月をかけて、666 冊の『群書類従』を作り上げました。一説では、塙 保己一の頭の中には、6 万もの古文献が記憶されていたと言われています。

世の中には、大きなハンディキャップを乗り越え、偉業を成し遂げた人物が多く存在します。時代に関わらず、手本とするような人物を持ちたいものですね。

塙 保己一（はなわ ほきいち）　1746 年（～1821 年）、児玉郡保木野村(現在の本庄市児玉町)で生まれた。7 歳で失明し、15 歳で江戸に出て国学などを学び、文献集「群書類従」を編集したことで知られる。女性医師・荻野吟子、実業家・渋沢栄一と合せて「埼玉三偉人」と言われる。

真心の言葉・行動　挨拶・返事・履物を揃える

世の中には、尊いと思われるものがいろいろとあります。「真心」の言葉や行いもその一つではないでしょうか。父親の真心に触れて成長した人、母親の真心の一言で救われた人もいるでしょう。友だちの真心からの励ましによって、生きる勇気が湧いた人もいるかもしれません。

真心の「真（ま）」は、「まこと、うそ偽りのない、本当の、純粋で混じりけがない」などの意味があります。濁っている水も、清らかな水を注げば少しずつ澄んでいくように、真心は、人の心を素直にし、人を動かし、人を変えていくのかもしれません。真心のこもった行いや言葉をかけることは、世の中を良くしていく要素の一つであると言えるでしょう。例えば、真心の「挨拶」や「返事」、真心の気配り「履物を揃える」など、私たちが日常生活で心掛け、実践できることはたくさんあるのではないでしょうか。